

余生 忙しく・楽しく

昭和35年卒  
合田 隆年



会社を辞めて21年になる。悠悠自適の手前位の生活がまだ続いているが、毎日が楽しく、元気にやつていられるので、これが自分流の余生だと満足している。

2001年6月末、退社のパーティで「会長・社長ほか皆さんよりも、一番世話になつたのは家内、二人で全国全県ゴルフ旅行する」と宣言し、早速7月から巡回開始で2002年末までに34か所、順調であるで夢の様な時間だった。

小金井から国立の一橋大学までドアツードアで30分。化粧に厳しい伊丹さんの産業論のあらを探しに、2002年3月に卒業・成績両証明書を出し、助教の面接も受けた。商学院の聴講生になり、週3回位、時にはレポートも出して、一年間老後の楽しみを満喫できました。（後述のDFAアカデミー活動にも有意義、一橋でもやらせていただいだた。）

【経済学部同窓会の手伝い】 東京支部のS35年卒理事で理事会には出ていた。樋口さん、中村さんの後

こういう事も評価されたのか、2011年に学部長から鎖付きの金時計を頂いた。裏に大学の楠のマークがついていて（確かに生協で売っている？）知らない人に見せると「エツ、凄い」と驚くので、夏の間の密かな楽しみにしている。

【ディレクトフォースの手伝い】

2002年夏に出来たこの社団法人には種々の会社の役員OBが現在約600人（延べ約1400人）の会員

大学本部の方々ともお会いできて良かつた。尾池総長には「全学同窓会を是非」とお願ひし、東京でも医・工（機械）・文・法等の同窓会世話役と地なうし的に時々集まっていた。東京に拠点があれば、という気持ちが強くなり、次の松本總長にお会いした時に、「それをお話をしたら『やりました』と即答頂き、私が下調べした20か所を吉川副学長と一緒に見て回り、最後は品川駅隣接の品川インター・システムを総長にご覧願つて決定した。2009年の開所式は本当に嬉しかつ

2003年に安居支部長、宗雪副支部長の体制になるが、その時にお二人から「事務局をやってくれ」と。帝人・富士フィルムは宇部興産・化学部門のお客様、「やります」と即答。2005年にお一人が「70歳になつたからやめるので後任を選べ」と。西沢・岡野両氏を推薦した。二人が私の事務局継続という条件をつけたので、結局9年もやつた。なんとか責任を果たせたが、学部の諸先生、田村さんほかスタッフの方々のご支援が心強かつた。



DFに参加したおかげで、85歳の現  
在まで元気で楽しく有意義な生活が出来た。そのご恩返しとして、「20周年記念事業実行委員会」の委員長をやつてもらっている。自分でもあきれているが、本当に最後のご奉公である。年齢制限なし、是非この楽しいDFに入会下さい。

【同行一人・ゴルフ88か所巡回】

順調にスタートしたが、同窓会、DFのおかげで最後の88番目福井県の芦原カントリーには2010年11

す。宗雲さんの後日談にはんまりして、小学校への出前理科実験、ベンチャーエンタープライズ幅広い活動をしていくので是非U.R.Lをご覧ください。自己研鑽でも多くの研究会、同好会があり、私はゴルフ同好会、美術同好会に参加している。南禅寺の水路閣を描いた拙作が学部長の目にとまり、同窓会に置かれているのは過分の光栄である。

大学の公開講座や各種の研修会でやった「模擬取締役会」は総勢8名で、本物に近い議案を賛成・反対の二派で真剣に議論した。社会人向けの経営講座をシリーズでやった時には、安住さん、宗雪さんにもお願いした。「君がやっているのは祇園の女将みたいだな、お座敷に合わせて人を出

がいて、社会貢献と自己研鑽に励んで  
いる。一橋聴講生の私は即入会、会員  
番号17は「31E-1」と同じで、私の  
ラッキーナンバーである。最初に立ち  
上げた「大学での講義」事業を担当す  
ることとなり事務局入り、手探りで多  
くの大学を訪ねた。「論文を書いてい  
るか?」などの質問には「会社ではそ  
んな暇はありません、学生に役立つ話  
は出来ます」と、各種産業の開発的業  
務をついでD.F.的「プロジェクト  
X」シリーズも評価され、コロナ以前  
は年400回前後の出講、自分でも  
時々講義をした。同志社ではやったが  
母校の壁は高かつた。

数は少なくなつたが、肩を組んでの「琵琶湖周航歌」は格別だった。また来年もここで、と握手して別れた。人が好き、家族が好き、自分も好き、人間力歳!!

やつている。2010に学年全体「卒業50周年」をやつた。コロナでやれていなかつたE1の60周年を、2年遅れの今年7月に京都・東華采館でようやく。

は入っているが、母校図書館は敷居が高い過ぎる。発行日が2016年5月29日、希しくも家の誕生日。手元には数冊しかなく、ネットで見つけると買えない戻している。

が遂に「早くしないと私死にますよ」と。文章を短くするには絵を入れる手があると思いつき、ゴルフ場の絵を描き始めた。これが楽しく、絵の間に入れる文章も手書きで、サンプルを暮らしの手帳社に持参、その場で「これで行きましょう」と決定した。自費出版で600部、版元が50部販売、あとは知り合いにお届けした。国会図書館に

